



3

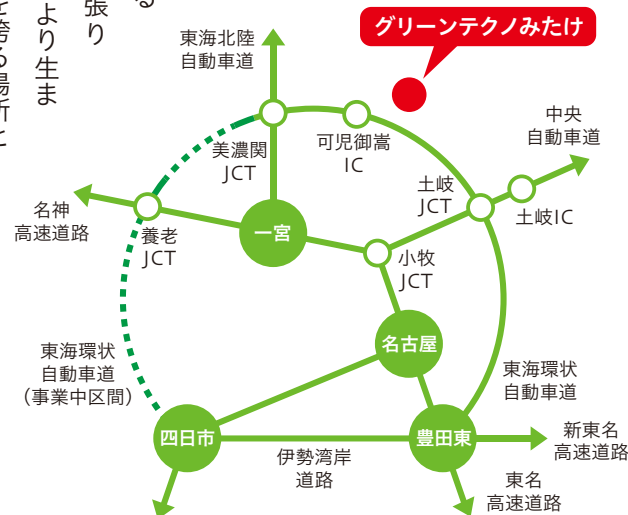
生み出そう

まちの元気、どんどん増やそう

みたけ イノベーション

新・産業と共に歩む

日本の工業生産の核でもある中部地方にある御嵩町。そのなかでも、御嵩町の活力を担う企業ステージ「グリーンテクノみたけ」は、全体の4割以上を公園や緑地が占める環境と東西南北に張り巡らされた交通網により生まれる抜群のアクセスを誇る場所として、平成9年（1997）に完成しました。現在、自然と産業が融合したこの地に多くの企業が進出。その業種は実に様々で、勢いあふれる多種多様な活力が生み出されています。



自動車の部品から建材品、段ボールケースなど、多岐にわたる製品が作られています。



新しい 農業形態の誕生 — 営農組織の法人化 —

農事組合法人ふしみ営農は、水田営農を展開する営農集団。委託を受けた田んぼでの米づくりのほか、小学校の食農教育などの取り組みが評価され、農業の経営や技術改善に取り組む農家や団体を表彰する「日本農業賞」の岐阜県代表に選ばれるなど、その活動は地域の農業を牽引する先駆的なものとなっています。



自然と利便性が調和した場所で、多くの人が働いているんだね





亜炭鉱からの メッセーヂ

全国有数を誇った亜炭の生産。
当時は貴重なエネルギー源でした。

亜炭とは、木が湖の底などに堆積して炭化したもの。石炭ほど炭化が進んでいないため熱量は低いものでしたが、燃料不足が深刻であった太平洋戦争中や戦後復興に多く使用された燃料です。中京圏にある工業地帯に近いことや亜炭が比較的浅い場所に



新聞記者・ミーモ、取材に行ってきました！

炭鉱で働く人々

亜炭は「黒いダイヤ」と呼ばれていたんだ



亜炭



あったため簡単に掘り出せたことから、かつて御嵩町は「可児の亜炭」「亜炭の御嵩」といわれるほど、亜炭産業で栄えていました。しかし、昭和30年代に入ると石油などの燃料に押されて衰退し、やがてすべての炭鉱が閉山となりました。



- 明治2年(1869) 中村(現在の中地区)の亀谷吉兵衛と金子光助の2人が、旅帰りに大阪港で燃えて燃料になるという黒い石を持ち帰ったところ、裏山にある石とよく似ていることから掘り出しを始める
- 明治9年(1876) 伏見村鶴島で亜炭採掘会社第1号開業
- 明治15年(1882) 大庭・長瀬・比衣・伏見一帯で採掘の許可がおりる
- 明治27年(1894) 日清戦争の影響などにより製糸工場が増え、ボイラー燃料として亜炭需要が増加
- 昭和13年(1938) 石炭の代用燃料・補助燃料として、亜炭産業に活気が出てくる
- 昭和18年(1943) 亜炭生産県第1位になる
- 昭和20年(1945) 亜炭を航空燃料にするため一部の炭鉱を軍直属鉱に指定し、召集兵を御嵩小学校に宿泊させて生産増強にあたる
- 昭和21年(1946) 戦後の復興・引揚者等の就職口になり、除々に活気を取り戻す
- 昭和22年(1947) 亜炭生産高最大の年「可児の亜炭」「亜炭の御嵩」としてその名を知られる
- 昭和32年(1957) 可児郡内(現在の御嵩町及び可児市)で58万トンを出炭し、亜炭景気再び盛況に
- 昭和33年(1958) 重油燃料に押されるようになる
- 昭和42年(1967) 御嵩町内の亜炭鉱すべて閉山



町の地下に残る
採掘跡は、なんと
ナゴヤドームの
約160倍(約8km²)もの
面積になるんだって!



採掘跡の空洞充填作業



充填剤製造プラント

現在、御嵩町の地下には空洞のままの採掘跡がいたるところに残されています。そのため、突然地面に穴が空いたり、地面が下がるなどの被害がたびたび起こっています。近い将来発生が懸念されている南海トラフ巨大地震で陥没が発生する危険性から、地盤調査や空洞充填^{じゅうてん}工事を行うモデル事業に取り組んでいます。また、亜炭採掘の歴史は今日の環境や防災など、多様な分野への活動にもつながっています。これらは、かつて亜炭の一大産地として発展した御嵩町ならではの取り組みでもあります。

亜炭鉱対策は様々な分野に
広がりをみせています。

防災と環境のつながり



▲自立型避難所

太陽発電や蓄電池など、避難所が災害時においてエネルギーを自給できるシステムの構築を行っています。

蓄電池



▲太陽の恵みご近所支え合い登録

太陽発電システム設置補助金を利用された方を対象として、災害時にエネルギーを融通して使える仕組みを導入しています。

亜炭の歴史から防災を学ぶ



▲防災アカデミー

災害に対する正しい知識や技術を習得し、災害時には救援救護活動を担う防災リーダーを養成しています。



▲防災教育

亜炭の歴史や空洞充填工事について学ぶなど、様々な教科の中で防災について学んでいます。



▲防災訓練

子どもから大人まで、防災の大切さや、いざという時の対応を学ぶ場となっています。



記者ミーモの

取材メモ

「亜炭鉱」という分野での産業発展は終わったけれど、そこから安全分野、環境分野など、いろんな分野の取り組みにつながっていることがわかりました。これは、今を生きるぼくたちが、「歴史を大切にしながら新たな活力を生み出していこう」という大事な取り組みなんだね!



亜炭鉱
ハザード
マップ

観光
分野

みたけ 華ずしの会

「御嵩町に特産品を」との想いから、新たな郷土食として「みたけ華ずし」の開発・普及に取り組んでいる団体です。普及のためのみたけ華ずし拠点をオープンさせ、ランチの提供や華ずし体験の実施など、多くの人に華ずしの魅力を味わってもらえる仕組みを作っています。現在、海外からの誘客も視野に入れながら、日本食の代表「寿司」の一つのジャンルとして育んでいます。

御嵩町は、
元気な人が
いっぱいだ!!

あつと驚くほど
元気な

御嵩人

みたけびと

御嵩町は、産業、観光、健康・福祉、歴史文化など、多くの分野で活躍する人がたくさんいます。そして今も、多くの取り組みが誕生しています。そんな数々の取り組みは、すべて町民たちの「御嵩町を元気に！」という想いにあふれています。そんな熱い活動に触れてみませんか。

中山道 ゆったり伏見宿

旧伏見郵便局舎をミニ観光案内所として開設し、中山道往来の休憩所として多くの旅人をもてなしています。また、公共施設や各商店の店先、各家庭などに雛飾りをおこなう「御嶽宿・伏見宿のひなまつり」をはじめ、ミニ音楽会、ふれあいマーケットなどを企画・運営し、多くの人が交流でき、にぎわいを生み出せる機会づくりにも取り組んでいます。



観光
分野

エコビアガーデン

名鉄御嵩駅前にある御嶽宿さん広場で毎月開催。みたけとんちゃんをはじめとした地元の美味しい食べ物とビールを味わいながら楽しい夜を過ごす、御嵩町民にとってなくてはならないイベントです。



みたけとんちゃん



ぼくも
みんなに負けて
られないや!!



健康・福祉
分野

MTK48

御嵩町オリジナルの介護予防体操「夢いろ体操」を広く町内外の人に知ってもらうために結成された MTK48。65 歳以上の高齢者がメンバーとなり、町内だけでなく町外のイベントにも積極的に参加、「明るく元気な高齢者が暮らす御嵩町」を PR しています。現在、新しい曲での介護予防体操を習得するなど、さらなる進化を続けています。

